



# くまがい市議3月議会で最後の質問

## 「みせしめにされた屈辱」を「夕張プライド」に変えるために



「財政破綻の国・道・金融機関の責任は棚上げ」「見せしめ、職員・市民・子どもにまで屈辱感」  
副教材や博物館の展示で、「プライド」の回復を

### 財政破綻…国・道 金融機関の責任

#### 質問1

四年後には、財政再生団体から、実質的に脱却となるが、財政再建計画・再生計画では、夕張財政破綻の国や道の責任、企業や金融機関の貸し手責任については、全く言及しないまま、市民サービスの大規模な引き下げや、職員の大量退職、大幅な賃金カットなどが行われた。

これについて地方財政の専門家の皆さんや、弁護士さんたちからは、「憲法に抵触しているのではないか？」という声まで上がった。当時市職員であり、組合の委員長でもあり、4年前に市長に就任され、今、一期目を終えようとしている厚谷市長はこのことについてどのような見解をおもちかがう。

#### 厚谷市長

財政再建計画・再生計画について、国や道、金融機関の責任について一切言及していないが、これまで財政再建をできたのは、自分たちの力だけではなく、国や道などからあったからだと考えている。

### ヤミ起債・会計処理 ニセ報道について

#### 再質問1

財政破綻が報道された当時は、ヤミではなかったのに「ヤミ起債」とニセの報道がされ、「夕張だけ」と報道された経理出納機関をまたいだ会計処理は、夕張市よりも先に、「道庁をはじめ全国でいくつもの自治体が行っていた」ことが、「10年後の報道で明らかになった」ことについて、市長のお考えは？

#### 厚谷市長

法のもとで、財政再建計画を自分たちが提出し、同意をいただいた。他自治体のことに、言及はできない。

### 「みせしめの夕張 子どもにも屈辱感」

#### 再質問2

嵐のような夕張バッシングのマスコミ報道。国・道、企業や金融機関の責任はすべて棚上げし、歴史的な経過や事実をきちんと報道せず、夕張は自民・公明政権の意向に沿って地方財政引き締めのための「見せしめ」にされた。

当時、国民全体に向けて、「夕張市が膨大な赤字隠しをしてきたのだから、自己責任だ」と嵐のようなマスコミ報道がされた。私は国民に対するマインドコントロールのためだったと考える。夕張市史の編纂に当

たられた、宮崎伸光生が、2016年8月に札幌で開催された「夕張市の財政再建を考えるシンポジウム」での発言で、「見せしめの夕張ショックキャンペーンで、夕張を徹らしめるとい

うのは、言葉は悪いが「ある種のいじめ」であり、再発防止というよりも、夕張に暮らす人々の、自尊心・プライドを大きく揺るがし、かなり精神的に追い込む結果をもたらしたのではないかと述べているが、市長のお考えは？

「ある種のいじめ」子どもにも屈辱感

「憲法にも抵触(？)の財政再建計画避け」とおれなかった？

憲法にも抵触(？)の財政再建計画避け

住民自治の成熟があれば改善できた

意見

地方自治の専門家の皆さんからは、「市民が声を上げれば、再建計画の変更は可能。声を上げることが大事」とアドバイスされたが、市民の多くが住民自治の意識が未成熟で、大きな運動をつくれなかったことを残念に思っている。

財政破綻に対する屈辱から得た教訓

質問2

シンポジウム記録集の宮崎先生の発言の中に「市民はマスコミをあげての夕張バッシングに耐える毎日。職員は全国から罵倒の電話が殺到する中、愚痴もこぼせず、飲みにも行けず、退職者の送別会や慰労会もできない状況、自殺者も多かった。職員がいきなり半数に激減された中で、慣れない作業・暖房も止められた中で連日の徹夜作業。どんな作業をしたのか思い出せないほどの過酷な

業務。そして収入は4割カット。それに引き換え、市に貸していた金融機関は、貸し手責任を問われることもなく、1円の損失もなし。この破綻処理の方法は、夕張市ならではのプライド、誇り、矜持といったものの維持を困難にしてしまった。ここに非常に大きな問題があるのではないか。」とある。

その時の中高生の子どもたちは、部活の試合などでも、トイレでジャージに縫い付けられている夕張という文字を手で隠したとか、修学旅行でお土産を買いに行つて、店の人から「どこから来たの？」と聞かれて、下を向いて答えられなかったとか、胸を張って夕張とは答えられない。そんな過酷な状況が続いた。

このような、国に由来するいじめで屈辱を味わった17年前の財政破綻から、夕張市はどのような教訓を得たとお考えなのか、市長の見解をうかがう。

このように、国に由来するいじめで屈辱を味わった17年前の財政破綻から、夕張市はどのような教訓を得たとお考えなのか、市長の見解をうかがう。

厚谷市長

得た教訓は「財政規律の順守」「徹底的な財政の開示」「行政依存からの脱却」の3点。

市民や職員の頑張りも地域歴史教材にしたい 子どもたちのプライドに

質問3

財政破綻を今後、次世代に向けて、どのようにならぬのか。財政再建計画は、ゼロベース・これがないと人が死ぬのかどうか、それが基準。研究者の方たちからは、あまりにも冷酷な再建計画にもシヨナルミニマムの切り下げにならないか、他自治体への影響も心配された。

ここで、大変重要なのが、子どもたちの健全なアイデンティティの形成にかかわる、自尊心の問題。子どもたちが誇りを持って地域社会をつくるっていくことが、自尊心につながる。そういうことが、自分自身の存在価値を認め、成功体験を得やすいといわれている。この「財政破綻の問題」を国や

道や企業や金融機関の責任も含めて、きちんと子どもたちが理解をしたうえで、さらに、バッシングを受けながらも、黙々と地域を支えてきた職員の皆さんや市民の頑張りも、「子どもたちのプライド」に変えられるように、「地域教材の副読本の中に入れて」とか、石炭博物館の中にそういったことが理解できるように「展示を常設する」と等ということが必要と考える。

子どもたちの健全なアイデンティティの形成のために、ぜひ、地域教材や石炭博物館での展示につなげていただきたいと思うが、この件について、市長のご所見を伺う。

厚谷市長

夕張市総合計画を改めて作成し、再生計画の総括をする中で、次世代に向けてどのような取り組みを進めるか考えていきたい。

※市長の判断により、他の政策的な質問は議会の答弁をせず、公開質問でお答えいただきました。(本紙前号参照)

令和4年度三賞授与式開催

3月25日(土)午後2時拠点施設りすたで、夕張市文化協会令和4年度三賞授与式が開催されました。

【文化協会賞】

(故) 松原 攻様

昭和42年夕張美術協会の会員になった。会員になる前から札幌・岩見沢・滝川等の諸美術展に作品を発表していた。……平成20年夕張市立ゆうばり小学校・夕張市立夕張中学校の校章デザイン作製を夕張市美術協会に依頼され、参加協力した。平成29年交流施設「ゆうばり共生型ファーム」(旧夕張小学校)の正面玄関の壁に大壁画を制作した。……

【教育長奨励賞】

(故) 田澤 公代様

昭和53年から平成4年まで市内向陽中学校や小学校で教師として勤務した。退職後、夕張市美術協会会員として活動した。……油絵などの手法を独自で研究し、北海道美術協会会員としても油彩画の作品を多数発表した。油彩画「夕張岳」が「夕張文化」67号(令和3年発行)の表紙を飾った。

……

【市長奨励賞】

(故) 皆川 祐爾様

明治大学在学中「作詞作曲研究会」に所属し、当時の作品の中に「夕張めろん」がある。……昭和57年ヤマハ

【文化協会奨励賞】

押花サークル 代表 宮木 篤江

平成12年に「押花サークル火曜会」として発足して23年になります。



受賞者記念撮影

(故)高野百合子先生のご指導を受け、咲いている花を押花にすることから始めました。絵画で風景を画くように押花で表現します。札幌市・由仁町・栗山町等で作品を発表して来ました。……

主催者挨拶は文化協会会長小林和拓さんから、お祝いの言葉は夕張市長厚谷司、市議会議長大山修二、市教育委員会教育長小林広明の3方からありました。受賞者を代表して宮木篤江さんが謝辞を述べ、式典は終了しました。



紙智子「国会かけある記」 参議院議員 紙智子

畜産の灯を消すな

統一地方選挙の前半戦が終わり、悔しさもありますが、政治を変えるために「あきらめない」ことが大事です。

北海道で続く酪農危機、国会では「酪農やばいです！」という酪農家の声を紹介して質問しました。

政府は酪農家に生産目標を持たせ、もっと増やせ、アクセルを踏め」と求めてきたのに、今度は一転、「抑制だ、ブレーキだ」と。「一体どうしたらいいのか」と悲鳴が出るのは当然です。

コロナ感染症の拡大で学校休業など、牛乳の消費が減り、ロシアのウクライナ侵略の影響もありますが、円安誘導政策で飼料はじめ輸入資材が高騰したのは、明らかに政治の責任です。

政府の責任を指摘するとともに、高騰した工賃を直接補てんするよう求めてきました。生乳が過剰というなら需給調整することも政府の責任です。北海道では約14万トンもの生産量を減らすうとしていますが、輸入している乳製品(カレントアクセス)約14万トンは手つかずです。

WTO協定上にカレントアクセスは全量輸入する義務があるのかと聞いたところ、政府は(そのような)規定されていないと認めました。約14万トンは政府の方針で輸入しているだけです。政治決断でカレントアクセスを減らすことが出来ます。資材高騰分の直接補てんとカレントアクセスの削減、酪農家の苦難を軽減する希望はあります。

「畜産の灯を消すな」の声は広がり、マスコミも取り上げています。「あきらめず」連帯を広げます。